

2019年(令和元年) 手足口病の流行状況（長野県）

2019年(令和元年)8月7日
 長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 手足口病とは

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とし、乳幼児を中心として夏期に流行する、エンテロウイルスを主原因としたいわゆる夏かぜの代表疾患です。

基本的には数日のうちに治癒する予後良好の疾患ですが、稀に髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などを呈することがあります。主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

2 今年の患者発生推移

手足口病の届出数は近年、隔年で流行する傾向を示しており、最近では2015年及び2017年に流行しました(図1)。

今年7月上旬から急激に増加し初め、第28週(7/8-14)に1医療機関当たりの届出数が5.33人となり国立感染症研究所の定める警報レベル(同5人)を超えました。最新の第31週(7/29-8/4)に21.04人となり、これまで最大値であった2015年32週の17.20人を超え、1999年の感染症法に基づく調査を開始して以降最大となりました(図2)。今後もしばらくの間は、大きな流行の継続が懸念されます。

全国でも、過去20年で最も多い状況となっています。西日本から流行が始まり、直近では関東、東北等を中心に増加しています。

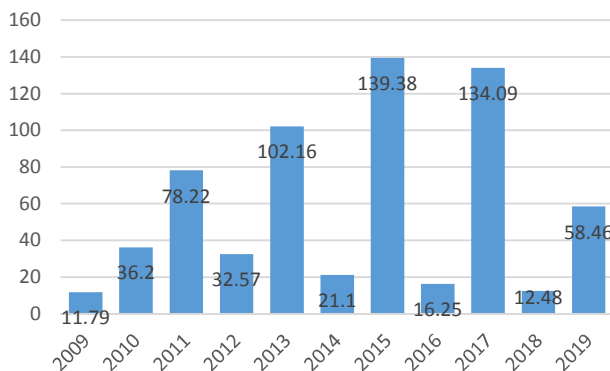


図1 手足口病年別定点当たり累計

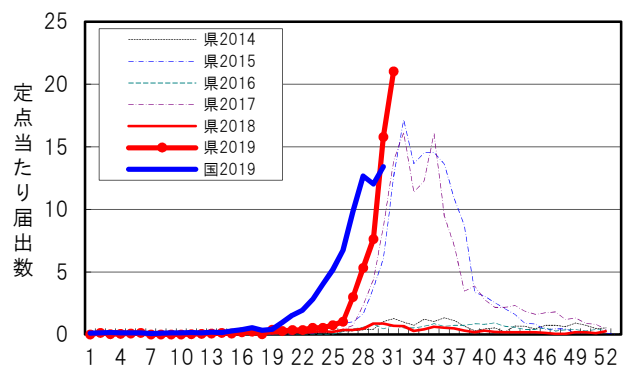


図2 手足口病週別届出数

** 感染予防のポイント! **

- ★ 石けんと流水による手洗いをしっかりと行いましょう。
- ★ 集団生活ではタオルの共用は避けましょう。
- ★ おむつの交換などは、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしましょう。
- ★ 体力が低下しないよう、十分な休養と栄養補給を心がけましょう。
- ★ 脱水症状にならないよう、水分をしっかりと取りましょう。

*厚生労働省 HP「手足口病に関するQ&A」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>